



ワークシートなど

## 4章の問い

全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。



小学校の教科書で見た行列だね。この武士たちは何をしているのかな。

### ●小学校で学んだ人物と主な出来事

↑1 会津藩主参勤交代行列図 [福島県 会津若松市立会津図書館蔵]

室町時代	戦国時代	安土桃山時代	江戸時代
1573	1590	1603	1641
織田信長が室町幕府を滅ぼす	豊臣秀吉が全国を統一する	徳川家康が征夷大将軍となる	鎖国が完成する
→2 織田信長	→3 豊臣秀吉	→4 徳川家康	→5 徳川家光

○百姓一揆・打ちこわしが増える



### ●「学習する時代の見通し」をもとう

#### ☞ 対話 ☞

これから学習する時代について、どのような時代なのか、ほかの人と話し合ってみよう。

その際、小学校で学習した人物や主な出来事、前の章で学習した時代の特徴を踏まえよう。

★この時代では、前の章で学習した時代からどのように社会が変化するか、予想を書こう。

### この章で学習する節の問い

- 1節 大航海によって結びつく世界**  
 ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。  
 p.106~113
- 2節 戦乱から全国統一へ**  
 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。  
 p.116~123
- 3節 武士による全国支配の完成**  
 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。  
 p.124~131
- 4節 天下泰平の世の中**  
 なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。  
 p.136~145
- 5節 社会の変化と幕府の対策**  
 なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。  
 p.146~153

➡ p.158で振り返ろう



1節の問い ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。



←1 イスラムの国での研究の様子 イスラムの国々では、ギリシャやインドの影響を受けて、さまざまな学問が発展しました。  
資料活用 図1のなかから下に挙げたA～Cを探してみよう。  
A. 地球儀 B. 砂時計 C. アストラーベ



←2 羅針盤 航海のときに方角を知るための道具です。南北を指し示す、磁石の性質が中国から伝わり、ヨーロッパで実用化されました。



↑3 アストラーベ 天体の高度を測るための観測器具です。船の上で地球の緯度を知ることができました。

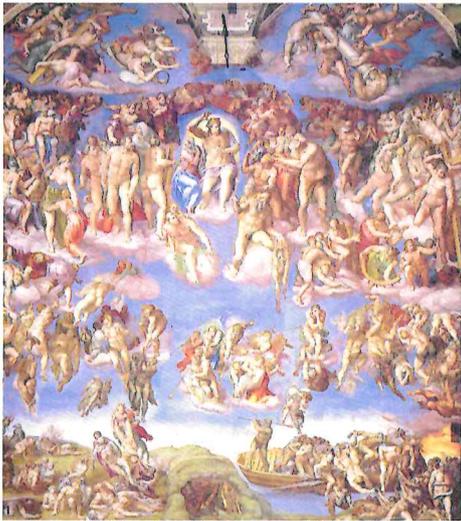


この人たちは何の研究をしているのかな。

1 ヨーロッパの変革



学習課題 ヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流によってどのように変化していったのだろうか。



↑4 ミケランジェロ作『最後の審判』 ローマ教皇が修築しようとしたサンピエトロ大聖堂に隣接するシスティナ礼拝堂の絵です。ミケランジェロは、この絵を60歳から6年がかりで完成させました。[バチカン市国 システィナ礼拝堂蔵 高さ14.4m×幅13.3m 16世紀]

イスラム商人との交流とヨーロッパ

キリスト教が人々の精神的な支えとなっていたヨーロッパでは、ローマ帝国の分裂後、しだいにローマ教皇(法王)を首長とするカトリック教会の勢いが増し、各国の王をしのぐ力をもつようになりました。11世紀末、教皇がイスラム勢力のなかにある聖地エルサレムを奪い返すよう呼びかけ、ヨーロッパ各国の王は十字軍の遠征を行いました。

13世紀までに7度行われた遠征は結果的に失敗しましたが、ヨーロッパの国々とイスラム勢力が接触したことで、イタリア商人とイスラム商人の交易が活発になりました。ユーラシア大陸を行き交うイスラム商人との交易により、彼らが航海などでつちかった、天文学などの高い水準の学問や技術が、ヨーロッパに紹介されました。

新しい芸術と技術

これまでのヨーロッパの生活や文化は、カトリック教会の影響を強く受けていました。しかし14世紀になると、人間の個性や自由を表現しようとした古代ギリシャ・ローマの文化を理想とするルネサンス(文芸復興)とよばれる



↑5 古代ローマの三美神



↑6 中世の三美神



↑7 ルネサンスのころの三美神 [ポッティチェリ作『春』イタリア ウフィツィ美術館蔵]

資料活用 図5~7の3枚の絵について、顔の描き方に注目して、違いや共通点を探してみよう。

新しい風潮が生まれました。ルネサンスは、交易で富を蓄え、イスラム文化の影響をいち早く受けたことで学問や芸術が盛んになった、イタリアの都市から始まりました。ルネサンスは16世紀にローマを中心に全盛期を迎え、教皇や国王、裕福な商人の援助を受けた芸術家たちは、多くの絵画や彫刻、文学作品を著しました。

また、中国からイスラム商人を経て伝わった火薬と羅針盤が改良され、活版印刷術も発明されました。天文学では地球が球体であることが主張されました。技術や科学の進歩は、新しい戦術や長距離の航海術を発達させ、ヨーロッパの変革に大きな影響を与えました。

10 信仰の見直し 十字軍の失敗後、教皇やカトリック教会の権威は衰え、資金も不足しました。16世紀になり、教皇がローマの大聖堂修築の資金を、免罪符を販売して集めると、ドイツのルターは、教皇や教会の権威を否定し、「聖書だけが信仰のよりどころである」と説いて宗教改革の口火を切りました。また、スイスのカル

15 バンは、人は神の救いを信じて職業に励むべきだと訴えました。ルターらの考えを支持したキリスト教徒を「抗議する者」という意味で、プロテスタントといいます。一方、カトリック教会でも改革が進められ、その中心となったイエズス会は海外布教に力を入れました。



←8 免罪符を販売する様子 この札を買うと、罪の償い(罰)が軽くなる(贖宥)と説いたことから、贖宥状ともよべれます。

→9 ルター (1483~1546) 活版印刷術によって、ルターの主張は急速にドイツの人々に伝わりました。



確認しよう

ルネサンスと宗教改革とはどのような出来事か、本文から書き出そう。



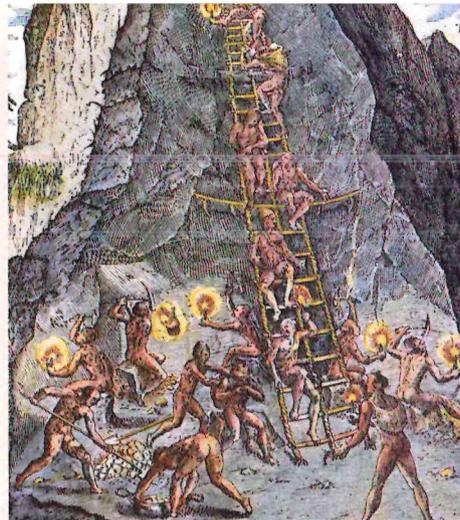
説明しよう

イスラム商人との交流が、ヨーロッパの文化や技術・科学にどのような影響を与えたのか、説明しよう。

Table with 2 columns: Page number and Topic (e.g., 1 弥生, 5 古墳, 12 鎌倉, 14 南北朝, 16 戦国, 17 安土桃山, 18 江戸, 19 明治, 20 昭和, 21 平成, 令和)



↑1 西インド諸島にたどりついたコロンブスの一行 友好的証しとして贈り物を差し出す先住民に対して、コロンブス一行が、十字架を立てて島を領有することを宣言している様子です。



↑2 鉱山で働かされる先住民 メキシコやペルーで開発された鉱山では、労働力として先住民が集められ強制的に働かされました。

ヨーロッパの人々を出迎えた先住民の人々は、どのように扱われたのかな。



## 2 大航海時代の幕開け

1節の問い ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。

### 解説 香辛料

15世紀ごろまでのヨーロッパでは、こしょうなどの香辛料は肉の保存剤や薬として利用され、貴重品でした。



学習課題 ヨーロッパの人々の進出によって、世界はどのように変化したのだろうか。

### アジアの香辛料を求めて

古代や中世のヨーロッパの人々にとって、香辛料や絹織物などのアジアの産物は貴重品

でした。なかでも香辛料は、インドや東南アジアが産地でしたが、ヨーロッパに届くまでに西アジアのイスラム商人をはじめ、さまざまな商人の手を経ていたため、値段が高くなりがちでした。

15世紀になると、ヨーロッパの人々は、直接インドや中国と香辛料などの取り引きをするために、当時の科学や技術の進歩を生かして新たな航路を開拓しようと考えようになりました。その先頭を切ったのは、15世紀後半にイベリア半島のすべてをイスラム勢力から奪還した、ポルトガルとスペインでした。これらの国々は、貿易で利益を得ることだけでなく、イスラム勢力に対抗してキリスト教を世界に広めることも目指しました。

### ヨーロッパ人の新航路開拓

スペインの援助を受けたコロンブスは、西に進めばイスラム教の国々を通らずインドなどのアジアに着くと考えて出航し、1492年にアメリカ大陸に連なる西インド諸島に到達しました。その後、ポルトガルのバスコ・ダ・ガマ



↑3 アメリカ大陸到達前の地図 1490年に描かれ、コロンブスも使っていたとされています。資料活用 p.110の地図と比較してみよう。



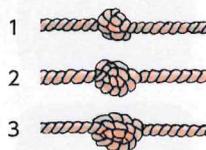
どうもろこし

カカオ豆

↑4 アステカ王国の首都の様子(想像図) アステカ王国の中心都市であるテノチティラン(現在のメキシコシティの一部)は、16世紀初めには人口20万の大都市となりました。市場には各種の露店が並び、王国各地から集まった商品が取り引きされていました。[ディエゴ・リベラ作 メキシコ国立宮殿蔵]



↑5 インカ帝国の都市マチュピチュ(ペルー) 険しい山の奥地にあつたため、スペイン人による発見をまぬかれました。神殿・宮殿・貯蔵庫などの跡が残っています。



→6 キープ 縄の結び方で数を記録し、家畜や人口などを管理しました。

が1498年にアフリカ南端の喜望峰を回ってインドに到達し、アジアへの航路が開かれました。アメリカ大陸の沿岸の探検が進められた後、スペインが派遣したマゼランの一行はアメリカ大陸の南端を回って西に向かい、1522年、世界一周に初めて成功しました。これにより、地球が球体であることが証明されました。

ヨーロッパ人による新航路の開拓が続いたこの時代を大航海時代といいます。アメリカ大陸とアジアやヨーロッパ・アフリカとの間で、各地の動植物や産物、病気などが、互いに急速に広まりました。

### アメリカ大陸の文明

ヨーロッパ船がやって来る前のアメリカ大陸では、先住民が気候や地形を利用して、とうもろこしやジャガイモ、豆類などを栽培する農耕文化を古くから営んでいました。彼らは紀元前1200年ごろから独自の文明を築き、15世紀には、現在のメキシコを中心にアステカ王国が急速に領土を拡大したほか、現在のペルーを中心にインカ帝国が支配を広げました。これらの文明では太陽が信仰され、優れた石造建築技術を用いて神殿などの建造物がつくられました。物事の記録には、アステカ王国などでは絵文字が、インカ帝国では縄を使ったキープという方法が用いられました。馬や鉄器は知られていませんでしたが、このように、アメリカ大陸には独自の文明が存在しました。

① ヨーロッパ・アフリカからアメリカ大陸へ小麦や牛・馬などの家畜が伝わり、反対にアメリカ大陸からはジャガイモやとうもろこし、トマトなどが伝えられました。

**未来に向けて** **アメリカ大陸に渡った病原菌** 平和・安全

16世紀以降、ヨーロッパ人がアメリカ大陸に入り込んだことにより、天然痘やはしか、インフルエンザなど感染力が強く、大陸に存在しなかった伝染病がもたらされました。先住民はこれらの伝染病に対する免疫を全くもっていなかったため、多くの先住民が命を落とし、人口が激減しました。ヨーロッパ人によるアメリカ大陸征服の背景には、ヨーロッパ側の強い武力だけではなく、伝染病により先住民の社会が大きく変化し弱まったことがあります。



←7 天然痘に苦しむアステカ人

5C	縄文
1	弥生
2	生
3	
4	古墳
5	飛鳥
6	奈良
7	
8	
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土・桃山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和

# 16世紀初めごろの世界

## やってみよう

1. 地図のなかから、下に挙げた三人の航海路をたどって、どこに行ったか確認しよう。



←8 **コロンブス**(1451?～1506)  
イタリアのジェノバに生まれ、スペインの支援を受けて航海に乗り出しました。



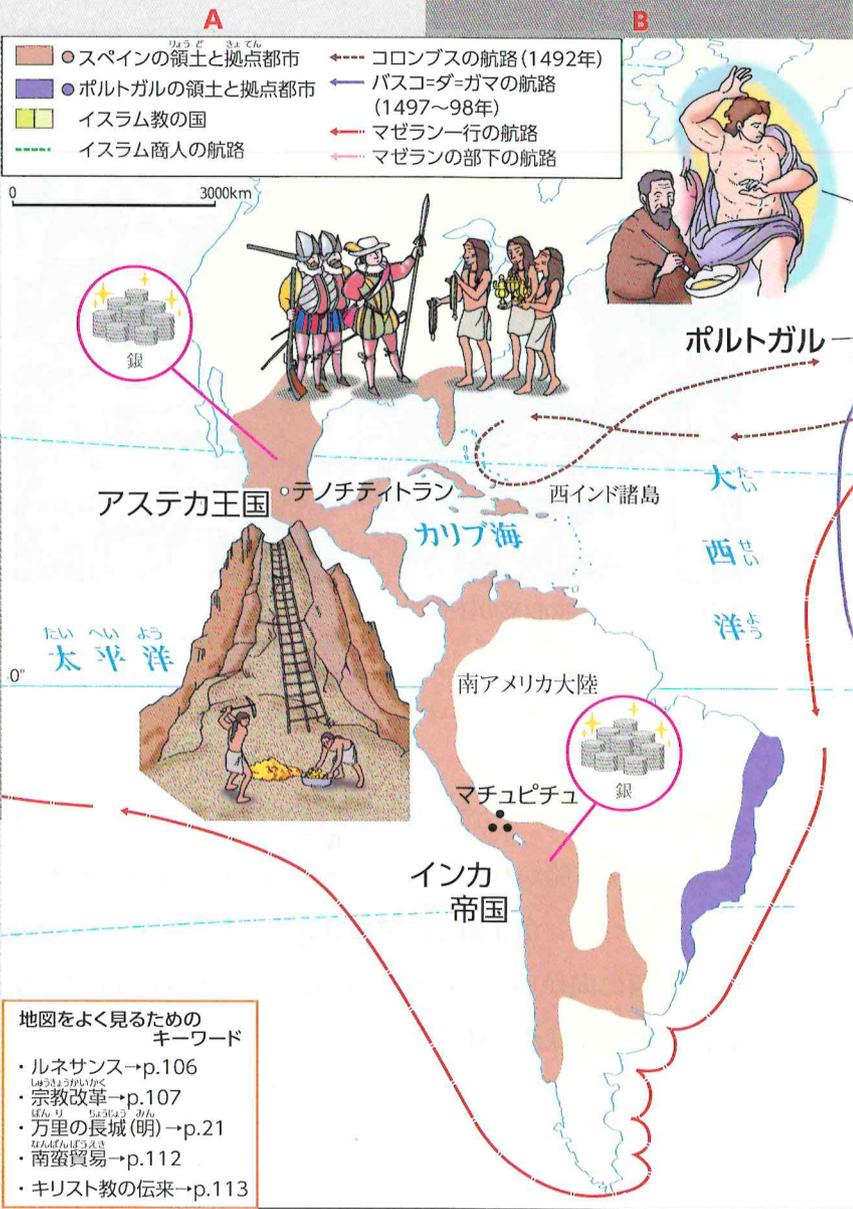
←9 **バスコ＝ダ＝ガマ**(1469?～1524) 喜望峰回りの航路開拓を目指すポルトガル王に命じられ、インドに到達しました。



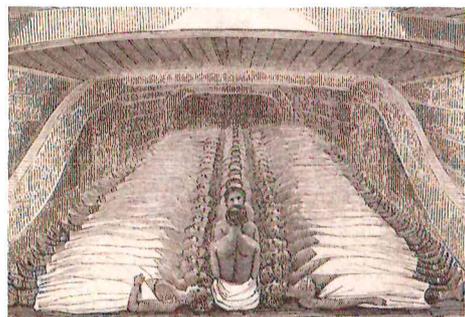
←10 **マゼラン**(1480?～1521) 途中で戦死しましたが、部下たちが初めての世界一周に成功しました。「太平洋」の名づけ親でもあります。

## 2. 見方・考え方

地図のなかから、宣教師を三人探してみよう。また、イラストや地図から宣教師が訪れた場所を考えてみよう。



↑11 16世紀初めごろの世界 世界とのつながり



↑12 **奴隷船の内部** アフリカ大陸からアメリカ大陸へ向かう約半年の航海中、奴隷には体と同じ大きさほどのスペースしか与えられませんでした。過酷な航海のため、5～6人に1人が死亡したといわれています。

## 世界に乗り出すヨーロッパ諸国

ポルトガルは、インドのゴアやマレー半島のマラッカに拠点を置き、香辛料の重要な産地である東南アジアのマルク諸島にも到達しました。

カリブ海の島々やアメリカ大陸に進出したスペインは、アステカ王国やインカ帝国を征服して広大な植民地を築くと、先住民を銀などの鉱山や、砂糖の原料となるさとうきびなどの大農園で働かせました。厳しい労働や伝染病により先住民が激減すると、アフリカから奴隷を連れてきて働かせました。また、16世紀後半には、フィリピンのマニラを拠点にしてアメリカ大陸とアジアを結ぶ貿易にも乗り出すなど、繁栄しました。しかし、スペイン領のなかで商工業



が発達していた地域の人々が独立してオランダを建国し、17世紀にはアジアなど海外との貿易や農園開発も推し進めたことから、ヨーロッパの商工業や金融の中心はオランダに移っていきました。

### 世界の一体化の始まり

このように新航路が開拓され、ヨーロッパ人が世界各地に進出したことなどから、16世紀には貿易が世界的に盛んになり、各地を結びつけました。また、アメリカ大陸やカリブ海の島々で、ヨーロッパの人々の都合による開発が進むにつれ、ヨーロッパの人々の貿易の中心も地中海から大西洋に移りました。ヨーロッパとアメリカの社会は、ヨーロッパに有利なかたちで結びついていきました。

### 解説 植民地

ほかの国(本国)に支配された地域を植民地といいます。植民地となった地域では、政治や外交などの権利が本国に奪われ、本国から移り住んだ人々によって土地や資源が開発されました。



確認しよう

ポルトガルやスペインが、アジアを目指した理由を、本文から二つ書き出そう。



説明しよう

新航路の開拓は、アメリカやアジアにどのような影響を与えたのか、説明しよう。

1	縄文
2	弥生
3	
4	
5	古墳
6	飛鳥
7	奈良
8	
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和



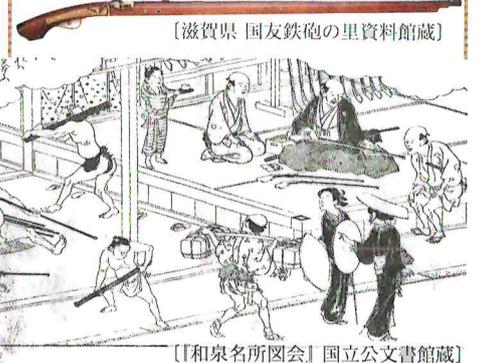
### 3 東アジアの貿易と南蛮人

1 節の問い ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。

#### 地域史 鉄砲づくりを支えた堺と国友

鉄砲づくりの技術は、種子島から各地に伝わりました。なかでも、裕福な商人が町の運営を行い、貿易によって鉄砲づくりの資金が豊かであった堺(大阪府)と、刀の原材料となる砂鉄が近くで豊富にとれ、古くから刀鍛冶がいた国友(滋賀県)は、全国有数の鉄砲の生産地となりました。

#### 2 国友の鉄砲(上)と堺の鉄砲鍛冶(下)



【和泉名所図会】国立公文書館蔵

学習課題 ヨーロッパの国々による世界進出によって、日本の生活や文化はどのような影響を受けたのだろうか。

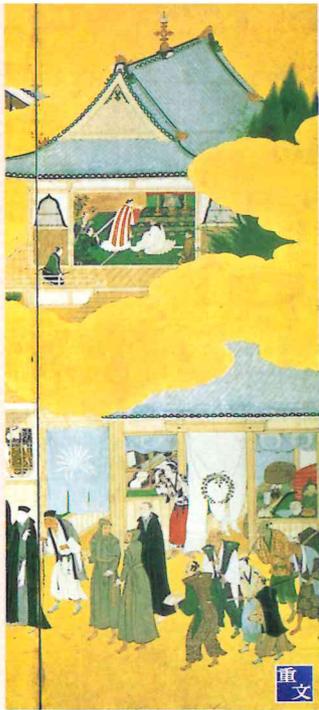
#### 東アジアの中継貿易

東アジアから東南アジアにかけての貿易は、15~16世紀を通じて中国の商工業の成長とともに行われ、ヨーロッパ人の来航前から盛んでした。中国の明は、外国から貢ぎ物を受けて返礼する形で貿易しており、公式には自国から海外へ商人を派遣できませんでした。そのため、代わりに必要な産物を集める琉球の貿易船や倭寇などが中継貿易を盛んに行いました。

そうした中国をめぐる中継貿易に、16世紀半ばからポルトガルとスペインが、17世紀にはオランダが参入しました。ポルトガルは、中国南岸のマカオに滞在することを明から許されました。

#### 鉄砲の伝来

1543年、種子島(鹿児島県)に漂着した倭寇の船に乗っていたポルトガル人によって、日本に鉄砲が伝わったとされています。その後ポルトガルの船が、拠点のあった東南アジアから平戸(長崎県)・長崎・府内(大分県)などにも来航し、スペインの船も日本へ来てヨーロッパとの貿易が始まりました。当時の日本では、ポルトガル人やスペイン人を南蛮人とよんでいたため、彼らとの貿易を南蛮貿易といいます。南蛮人は、明の陶磁器や生糸・絹織物のほか、ヨーロッパの鉄砲・火薬・時計・ガラス製品も日本にもたらし、日本との貿易で得た銀は中国に運ばれました。



←1日本にやって来た南蛮人「南蛮屏風」兵庫県神戸市立博物館蔵 **小地公**

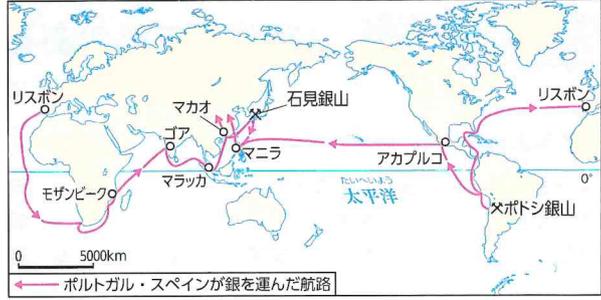
**資料活用** 図1のなかから下に挙げたA～Eを探してみよう。

- A. 日傘を持たせている南蛮人の船長
- B. 東南アジアから連れてこられた虎を運ぶ男
- C. 南蛮人を迎える宣教師
- D. 十字架のある寺
- E. 家来を連れて侍



南蛮人たちは、どこからやってきたのかな。

**地域史** 世界の銀を支えた石見銀山 [島根県立古代出雲歴史博物館蔵]



↑316～17世紀の世界の銀の動き(左)と石見銀山の銀でつくられた銀貨(右)

15世紀後半から16世紀、アジアの貿易で使われる中心的な貨幣が、銅銭から銀へと変化し、銀の需要が高まりました。16～17世紀の世界の銀の産出量のうち、日本の銀は約3分の1を占める時期もあり、その最大の産地が石見銀山(島根県)でした。この石見銀山をめぐる、多くの戦国大名(→p.96)が戦いました。貿易とともに世界をめぐる銀は、最終的に多くが中国に流れ込んでおり、当時の中国の商工業の巨大さを示しています。

各地で戦っていた戦国大名は、新しい武器である鉄砲に注目しました。鉄砲はすぐに刀鍛冶によって複製品がつくられ、またたく間に全国に普及し、戦い方に変化をもたらしました。また、城づくりでも鉄砲による攻撃や防備を考える必要が生まれ、城の備えが変化していきました。鉄砲は堺(大阪府)や国友(滋賀県)で大量生産されるようになり、鉄砲鍛冶も誕生しました。

**キリスト教の伝来**

1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが、キリスト教の布教のために鹿児島に來航し、平戸・山口・堺などで布教を始めました。後にイエズス会の宣教師たちも來航し、貧しい人々や病気の人々に救いの手を差し伸べ、学校・病院・孤兒院などをつくって布教を行ったので、信者(キリシタン)はしだいに増えていきました。信者になった多くの大名たち(キリシタン大名)のなかには、大村氏・大友氏・有馬氏のように、ローマ教皇に使節を送った者もいました。大名が次々と信者になった背景には、火薬などの輸入を有利に進めることができるといった、貿易の利益を得る目的もあったといわれています。日本で活動する資金が必要なため、貿易には宣教師も関わりました。

キリスト教の信者の数は、初めは九州を中心に15万人ほどでしたが、17世紀にキリスト教が禁止される直前には、全国で30万人を超えるほどになっていたといわれています。

② ヨーロッパ船は倭寇の開拓したルートを使用したため、港にはヨーロッパ船だけでなく、中国などの船も來航していました。



←4フランシスコ・ザビエル(1506～52) ザビエルらの布教活動は、ヨーロッパの国々による世界進出を宗教の面から支えるという役割も担っていました。[兵庫県神戸市立博物館蔵]

**小地公**

→5大友義鎮(宗麟)の印章 豊後(大分県)の戦国大名の大友義鎮は、積極的にアジアとの貿易に関わり、キリスト教を保護して南蛮貿易も行いました。晩年は自身も洗礼を受けて、フランシスコと名乗り、洗礼名を略した「FRCO」を組み合わせた丸い印章を用いました。



**確認しよう** ヨーロッパから日本に伝えられたものを、本文や資料から二つ以上書き出そう。

**説明しよう** ヨーロッパとの貿易や交流が日本の社会に与えた影響を、「鉄砲」を例にして説明しよう。

1	縄文
2	弥生
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和